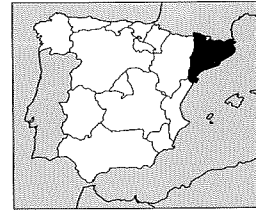
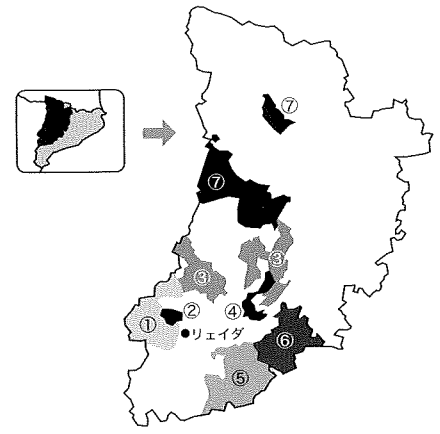


リエイダ大学環境地質科学部のホセ・アントニオ・マルティネス・カサノバス教授。専門は空撮などを用いる精密農業。「ドローンならば葡萄樹一本ずつの調査が可能で、精密栽培に果たす役割は大」と語っていた。



スペインの中のカタルーニャ州



コステルス・デル・セグレ DO のサブ・ゾーン

ルドネはこの地方の気候に適し、モダンなスタイルとなる。赤ワインは地場の品種のほかにもたくさんの外来種があり、一般的には力強いアロマ、タンニンがしっかりとした、バランスのある味わい。現在、サブ・ゾーンごとの特徴をPRしていこうと委員会では検討している」という答えが返ってきた。

コステルス・デル・セグレ DO では2年前から、環境保全、社会的責任、産業の経済的持続性を鑑み、DOとしては初となる独自のサステイナブル・システムを設定し、葡萄畑と醸造場に対し、定められた項目を順守しているかを検査、合格すると認定証を発行するようになった。また、ピレネー山脈の裾野にあるリエイダ県はスキーや山岳アクティビティのために訪れる観光客が多いこともあり、農産物の次に観光が重要な経済資源となっていて、ワインや食と観光を結び付けたいと、リエイダ・ワイン・ルートが設置されている。

多様なテロワールに点在する 7つのサブ・ゾーン

コステルス・デル・セグレというDO名は、訳すと「セグレ川流域」という意味となる。リエイダ県の北に連なるピレネー山脈中のフランス領内から流れ出したセグレ川はリエイダ市中を通り抜け、約30km下流でエプロ川に流れ込む。このDOについて「ピレネー山脈からエプロ川の間にあるセグレ川の流域にあり、内陸部にあるため地中海性気候の影響を受けず、夏は乾燥し日照が豊富、冬は霧に覆われ、湿度がある。葡萄畑は一般的に標高200～400mの間に位置し、土壌は砂質に覆われた石灰質だが、場所による違いが大きい」と、DO委員会の資料に要約されている。

7つあるコステルス・デル・セグレ DO のサ

ブ・ゾーンはリエイダ県内に点在し、地形、標高、気候条件、地質も多様だ。そこで、それぞれについてリエイダ大学環境地質科学部で精密栽培を専門とするホセ・アントニオ・マルティネス・カサノバス教授に解説してもらった。

①エル・セグリア El Segrià

リエイダ平野にあり、乾燥した土地で穀類などの大規模農業が行われている。葡萄畑はない(フィンカ・ラ・グラベラのボデガがあるが、その葡萄畑はアルテサ・デ・セグレのゾーンにある)。

②ライマツ Raimat

セグレ川にシンカ川が合流する地点の右岸、エプロ盆地にあり、標高200～300m。第三紀には内海だったため、粘土質土壌だが土中の塩分含有量が多い。夏暑く乾燥し、冬は寒いという、極端な大陸性気候にある。冬には霧が発生する。

③アルテサ・デ・セグレ Artesa de Segre

リエイダの北方に2カ所に分かれてある。ひとつはパラゲールの町を中心とし、もうひとつはアルテサ・デ・セグレの町を中心としている。エプロ盆地からモンセク山へと上っていく、セグレ川上流域にあり、標高300～400mの間に葡萄畑がある。ダムがいくつかあり、果樹園などのためのかんがい用水に利用されている。葡萄畑は川岸に近い沖積土壌の土地に多い。一般的には乾燥した気候下にある。

④ウルジェイ Urgell

小川が流れている地域だが、イエナ山脈から流出した土砂が表土となって深く堆積している。カステル・デル・レメイの葡萄畑がある土地は盆地上で標高が低く、かつて池があった場所で、池の水が蒸発した後にイエソ(石膏)が表土に出現した独特なテロワールがある。

⑤レス・ガリグス Les Garrigues

ガリグスとは「石灰岩」を意味する。プリオラートのモンサン山脈と接するブラデス山脈から降雨によって大きな石灰岩などの土砂が流出、

斜面の上部ではそうした大きな岩石、中腹は粘土質となり、麓に向かうにつれシルト質、砂質とより小さいものへと変質していった土壌が表土となる。表土は薄く、すぐ下に石灰岩があり、葡萄の根は岩の亀裂を通して地中に伸びる。土砂流出が繰り返されたため、地形も隆起があり、葡萄畑は小区画に分かれている。高い所では標高700mに及び、冬寒く、夏は暑いリエイダ市の中よりは涼しい。また夏の夕方には湿気を伴った地中海からのマリナーダと呼ぶ風が吹く。

⑥バルス・デル・リウ・コルブ

Valls del Riu Corb

イエナ山脈の中腹、隆起の多い地形で、葡萄畑は標高500～700mにある。セグレ川からは離れているが、エプロ盆地よりも降水量が多く、極端な寒暖差がある地域。オリーブやアーモンドの木が多く、数少ない葡萄畑がコルブ川渓谷の平坦地の排水性がよい沖積土壌にある。

⑦パイヤルス Pallars

モンセック山からピレネー山脈の間に2カ所に分かれてある。粘土質だが、リエイダ県中央の平野部とは異なり乾燥すると土に亀裂が入る。トレンプには標高850mぐらいにトーレスの葡萄畑、またタラルンの850～1000mにはカステル・デンクスの葡萄畑とボデガがある。その葡萄畑の中には、十字軍の時代に従軍僧侶たちがワイン造りに用いていた大きな石舟の発酵槽があり、現在もワイン造りに使用されている。

最近、ピレネー山脈にさらに近いソルトの800～900mにあるパイヤルス川渓谷の東面の斜面上に葡萄畑が開墾され、パティウ・デ・ソルトのボデガ名でワイン生産が開始された。リースリング、ヴィオニエとピノ・ノワール、それにINCAVIに協力し、ピレネー系と思われる品種を試験栽培する。モンサンのセラー・コムニカのペップ・アギラールとパトリック・モリーリョの醸造家コンビが友人のソムリエたちと始